

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）案

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月16日実施)	総合評価(3月20実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	「豊かに生きる力」を育み、自立と社会参加を目指し、キャリア教育の視点を持った、系統性、連続性のある教育課程を再構築する。	① 校内研究(授業計画・授業実践)の3年目のまとめとして、年間指導計画の系統性を計る。	① 「麻生の教育課程(試案)」を活用した授業の年間計画を作成し、試案の検証を行う。 ② 授業のユニバーサルデザイン化を進め、授業の評価の標準化をはかる。	① 試案を検証し「麻生の教育課程」を作成できたか。 ② 授業の評価基準を整理できたか。	① 「麻生の教育課程(試案)」をもとに学年学部間で系統性を踏まえた目標設定・年間計画の作成に着手した。 ② 学部研究で検証しながら授業のUD化を進め、特に環境面、教材面で共通理解を得ることができた。A部門では学部研究で授業の評価を設定し客観的な評価を行った。	① 「麻生の教育課程」をもとに年間指導計画を作成し、系統性のある指導を行う。 ② 研究紀要や研究報告会で発表された内容を参考に授業のUD化をさらに進める。授業のUD化は、人的環境整備と、これまでの成果を継承する方法を検討する。	① 保護者アンケート「前年度から引継ぎなど指導の継続が図られていますか」B評価以上84%(前年+1%) ＜学校評議員＞☆柿祭りで、全校の美術作品を見たり、美術の授業を参観したが、の学部でそれぞれの「わくわく感」を表現していた。 ② 保護者アンケート「児童一人ひとりに応じた教材や指導法が工夫され、わかりやすい授業が行われていますか」B評価以上91%(前年+1%)	① 音楽、美術について研究推進係会で検証し、系統性のある年間計画が立てられていることを確認した。他教科、領域について検証を行う必要がある。 ② 3年間の研究成果として、授業のUD化のポイントとして具体的な事例を環境面、教材面で資料として残すことができた。UD化の課題として人的環境については未整理である。A部門では学部研究で授業の評価を設定し客観的な評価を行った。今後は、全校的な授業の評価の標準化を図る。	① 「麻生の教育課程」を基準に授業の年間指導計画を作成するために、研究推進係だけでなく、学部長、各学部の研究担当で他教科、領域について学部間の系統性を検証する。また、系統性のある指導につながる年間指導計画を学部で保管し、データ化し閲覧できるようにする。 ② 授業のUD化についての研究の成果を、継承していくための、授業のアーカイブ化と人的環境についての研究に取り組む。
2 児童・生徒指導・支援	個々のニーズに応じた合理的配慮の視点を持った指導・支援を推進する。	① 個別教育計画の作成・評価の中で、「合理的配慮」の視点を明確にする。	① 個別教育計画について、マニュアルと事例集の活用研修を、全体、学部ごとに実施する。 ② 児童生徒支援会議やケース会の支援方針についても必要に応じて個別教育計画に反映させる。	① 合理的配慮の視点が明確となる研修が実施できたか。職員の評価B以上80%以上。 ② ケース会等の記録に「個別教育計画に明記」等を記載する。	① 個別教育計画作成の目的と書き方が中心の内容となり、参加者が26名で評価B以上が97%だった。マニュアル・事例集活用の教職員アンケートB評価以上76%。合理的配慮研修を夏季休業中、公開授業研究会の2回実施し、ほとんどA評価だった。 ② 児童生徒支援会議・その他148ケース実施。ケースになった児童生徒実態及び支援の手立てについて個別教育計画に反映させた。	① 研修参加者が少ない。研修内容が作成に十分反映されていない。今後は各クラス1名以上と新任者は全員参加にする。研修の中で合理的配慮の視点と指導上のポイントについて具体的に触れる。 ② 引続き校内ケース会児童生徒の実態や支援の手立てを校内で共有していく。	① 保護者アンケート「個別教育計画において児童生徒の実態を把握し、適切で具体的な目標・手立てが設定されていますか」B評価以上96%(前年+1%)	① 個別教育計画作成のマニュアルと事例集の活用の研修を実施したが参加者が少なかった。次年度以降は、新転任者は必須にして、研修の日程を4月当初に設定する。合理的配慮、基礎的環境整備について共通理解をした。 ② 新入生、4年生を中心に児童生徒支援会議を実施した。その後ケース会、医事相談等の支援につなげることができた。	① 個別教育計画を改善するために、引続き、研修会の実施、マニュアル・事例集の活用を推進する。また、合理的配慮、基礎的環境整備の視点で作成することを定着させる。 ② 児童生徒支援会議やケース会で検討した内容を個別教育計画に反映させる。
3 進路指導・支援	一人ひとりのライフステージに応じた進路指導・支援の充実を図る。	① 生活年齢に応じた進路学習など学習内容を見直す。 ② 保護者への進路に関する情報提供を見直す。	① 「麻生のキャリア教育」を基に、学部ごとに進路学習を見直す。 ② 進路の流れや、進路情報について、ホームページや掲示の工夫を図る。	① 学部研究においてキャリア教育の視点を持って、授業内容を整理できたか。 ② 新しい情報提供の方法と活用ができたか。保護者のアンケート評価B以上80%。	① 学部研究において、キャリア教育の視点で学習内容を整理できなかった。現場実習などの事前・事後学習では担任と協働して整理ができた。 ② HPに卒業生の進路状況や進路指導の流れなどを掲載した。図書コーナーを整理し、施設の便りなどを配架した。	① 年度始めに進路指導を意識して個別指導計画や年間指導計画を作成することを学部会で周知する。移行支援係に依頼し小中教員対象の進路研修を行うなど小中学部の教員の進路指導の意識の向上を図る。 ② 「進路のハンドブック」の内容を保護者のニーズに合わせ充実を図る。	② 保護者アンケートB以上80% ＜学校評議員＞川崎の進路決定が複雑になっている。保護者の不安が大きくなっている。将来の姿がどうなるかを教員が知る必要がある。	① キャリア教育の視点での授業内容の整理を行う。現場実習などの事前・事後学習では担任と協働して整理ができた。引続き「麻生のキャリア教育」を基にキャリア教育の視点で授業内容を整理する。 ② HPや説明会で進路に関わる情報を発信した。さらにニーズに合わせた情報が求められている。	① 学部研究において、キャリア教育の視点での授業内容の整理を行う。 ② 引続き保護者のニーズを把握し、説明会、情報交換の場を設け、情報発信を行っていく。た、教員向け研修を継続して行う。

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月16日実施)	総合評価(3月20日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
4	地域等との協働	「インクルージョンを目指す学校」として、インクルーシブ教育推進のために地域のセンター的機能の充実を図る。	① インクルーシブ教育に係る研修・相談の充実を図る ② パラスポーツの推進、拠点づくりに取り組む。	① 巡回相談のアンケートで、地域のセンター的機能について評価を行うと共に、公開研修会のニーズを把握し広報を行う。 ② NPOとの連携により、施設開放を活用したパラスポーツの企画運営に取り組む。	① アンケート結果から研修ニーズ、相談傾向の把握ができたか。評価B以上90%。 ② NPOとの連携により新たなパラスポーツの開発を行うことが出来たか。	① 1月までに実施した巡回アンケートは評価A以上100%であった。学校へ行こう週間の公開講座で行った進路に関する学習会のアンケート結果は好評であった。訪問相談延べ34校、地域保護者教育相談12件。研修依頼7件。校内教育相談148件。 ② Aプロを中心にNPO法人セルフと連携して施設開放を実現した。9月にオープニングイベントを行い500名の参加者があった。ボッチャ、フライングディスク、サッカー体験教室等7つのイベントを企画運営し、延べ262名の参加者だった。	① アンケートは引続き実施し、自由記述欄にも注意を払う。地域の保護者向け学習会は進路に関することを検討する。夏の学習会については、学校全体の研修との関連で内容を検討する。 ② NPOとの連携による施設開放の課題を整理し持続できる体制を作る。引続きパラスポーツの企画運営に取り組む。	① 保護者アンケート「shipの保護者への研修会等は充実していますか」B評価以上76%(前年-1%) ② 保護者アンケート「関係機関との連携、パラスポーツの推進など地域との交流を積極的に行っていますか」B評価以上73%、判断できない25% ＜学校評議員＞この取組を他校にも広げていけると良い。障害児者と健常者を無理に一緒にせず、隣でスポーツに取り組んでいる方法でもよいのではないか。家族でスポーツに取り組めると良い。	① 地域への校外巡回相談、研修会等ニーズに対応して行うことができた。訪問相談先の機関や地域の相談支援事業所より、保護者相談につながるケースがいくつか見られた。 ② NPO法人と連携して施設利用団体との連絡・調整を行った。(施設開放説明会年1回、運営委員会年3回)。本校主催のパラスポーツ等体験教室7回実施し延べ262人の参加があった。体験教室にして誰でも参加しやすいようにした。参加者は増えているが、肢体不自由児者、卒業生などが参加できる企画立案が課題である。	① 保護者学習会はPTA主催の学習会を含め、PTAと連携しながら内容や回数を整理していく。 ② 新しい取組のため、施設利用団体に戸惑いがあったが、初年度として新しい枠組みが構築できた。次年度以降さらに円滑な学校開放ができるようにNPO法人と協力していき、参加者のニーズに合わせた内容を検討していく。卒業生の生涯スポーツへの取組や肢体不自由児者が参加できる企画、支援方法を検討していく。保護者等への企画の周知をできるだけ早期に行う。
5	学校管理 学校運営	安全で児童生徒にわかりやすい教育環境整備に取り組む。防災教育の実施、災害時の危機管理について整備し教職員全員で動ける体制を作る。	① 新しいホームページの活用と充実を図る。 ② 教員の防災に関する意識を高め、組織体制を構築する。	① ホームページの項目について学期に1回見直す。 ② 学校周辺の環境把握と災害時の避難から保護者引渡しまでの緊急時シミュレーションを実施する。	① 教職員アンケート評価B以上80%。 ② 教職員全員がDIGの研修を実施したか。研修後のアンケートで理解度の評価B以上80%。	① ホームページ総括係を設け、係を中心に会議を行い進捗状況、問題点、解決策などを話し合い、見直し、更新に取り組んだ。学部行事、生徒作品等をこまめに更新した。 ② DIG訓練研修を実施した結果、参加した多くの教職員のアンケートで、学校周辺、地域の災害時の特性を把握する良い機会となったとの意見が多数だった。また、不審者対応訓練では麻生警察署員を講師に実施し全職員で対応を学んだ。	① 今後も掲載内容の精選、サイト構成の見直しを行う。教職員アンケートB評価以上82% ② 継続して、職員の防災に関する意識を高める研修を実施する。備蓄災害用資機材の取扱いの理解、及び、初期避難所開設における教職員の動きの確認が必要である。	① 保護者アンケートB評価以上59% ② 保護者アンケート「災害時、不審者対策等の安全対策は適切に行われていますか」B評価以上82%(前年-12%) ＜学校評議員＞災害時の対策を忘れないために、定期的に機材の使い方等を研修したほうが良い。虹ヶ丘小学校との合同避難訓練をすることを考えていきたい。	① 今年度は更新を100回以上行った。保護者のニーズが何かを検証していく。 ② DIG訓練研修を実施し、学校周辺の環境把握をすることができた。災害時の非難から保護者引渡しまでの緊急時シミュレーションを実施することが課題である。	① 学校として発信していく内容を検討し、見やすくアクセスしやすいホームページにしていく。教職員のホームページを活用しての情報発信の意識を向上させる。 ② 災害時の機材の使用方法をマニュアル化すると共に定期的に使用する訓練を行う。次年度については、緊急時シミュレーションの実施を検討する。